

会長の挨拶 20 職業の本質—その 7—

管理者なる概念をもう少し拡大して、会社の経営者だけでなく、その会社組織の管理的地位一般を指すとなると事柄は一段と不明確になる。ロータリーの世界でしばしば用いられる「実業又は専門職業において、裁量の権限ある管理職の重要な地位」をもってしても事態は、著しく不明確である。会社の役員を取締役・部長・課長・係長・主任という従来一般に行われてきた柱建てによれば事態は一応すっきりするようであり、銀行の支店長等を本店の課長待遇とみれば、大体において課長以上なら管理職の重要な地位にあてはめて一応よろしいような気分になる。しかし科学的思索というものはこのようなものであって良いのであろうか。

一番問題としておかなければならないことは、この一般に行われている社内身分系列が千変万化する企業経営の実体に対して、固定的であって良いのかという反省である。企業の実績に最も適した人事組織の検討を企業そのものが怠ってはならないということである。この立場から裁量権をもつ管理者のどの部分が当該企業の使命を制するかという実質論なくして、事柄を形式的に議論することはおよそ無意味であるといわねばならないであろう。

現にある大会社の運営に最も重要な管理機能と生産効率に影響を与える地位を現場の職長にしているという報告があるのである。課長制度等を廃止しようとする会社もあるという。こういう変転極まりない企業組織にあつて、ロータリーはそのクラブ内に最も活力ある企業運営のエネルギーとアイデアが直接持ち込まれるよう考えることが望ましいことだけは明らかである。

(小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用)